

令和4年度第2回京丹後市観光立市推進会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年11月21日(火) 午前10時00分～
- 2 開催場所 京丹後市役所峰山庁舎 201会議室
- 3 出席者等 坂上英彦会長、齊藤修司副会長、浅田高史委員、友田夕子委員、松本進一朗委員、濱口真一委員、坂根貴巳委員、中川秀雄委員、山口洋子委員、上田美知子委員、前田尚委員、田矢佳子委員、谷口正郎委員、大亀一穂委員、前田将汰委員、飯島徹委員、桐村博明委員、村上章委員
(zoom参加) 和田正人委員、丸田智代子委員、小笹俊太郎委員、久田千恵子委員

事務局	(一社) 京都府北部地域連携都市圏振興社京丹後地域本部	木村嘉充
	(一社) 京都府北部地域連携都市圏振興社京丹後地域本部	木本貴文
	京丹後市商工会	荒田義之
	京丹後市商工観光部長	高橋尚義
	// 商工観光部観光振興課	大江裕、下戸裕子、山添力也、 牧野伸伍、林有彩
市関係部局	(zoom参加)	
	市民環境部生活環境課	志水丈浩
	健康長寿福祉部健康推進課	金木泰憲
	農林水産部海業水産課	磯田新也
	教育委員会生涯学習課	安達純
	教育委員会文化財保護課	新谷勝行

- 4 議題及び会費の公開又は非公開の別 【公開】
第4次京丹後市観光振興計画の策定について

- 5 傍聴人の数 なし

- 6 発言の内容(要旨)

1 開会挨拶

<高橋商工観光部長>

おはようございます。本日は、お忙しいところ、ご出席を賜り誠にありがとうございます。定刻になりましたので、只今から、令和4年度第2回京丹後市観光立市推進会議を開催させていただきます。私は、本日の司会を務めさせていただきます京丹後市商工観光部長の高橋です。どうぞよろしくお願いをいたします。着座で説明させていただきます。

本日、ご出席の皆様をご紹介させていただきたいと思っておりますけれども、時間の関係上、出席者名簿と配席表をご確認いただきたいと思います。またオンラインでのご参加ですけれども、今日は、和田委員それから10時半になりますけど丸田委員がご参加いただきます。あと

小笹委員、久田委員合計4名がオンラインにて出席をいただいております。また時間ですけど、まだ2名3名お見えではありませんが、追ってご出席いただけたと思います。

それから、本日、今井委員、味田委員、松尾委員、伊豆田委員、秋田委員合計5名の方がご欠席ですが、いずれも委任状を頂いております。本日の出席者、委任状含めまして27名ということになります。委員定数の半数以上を満たしておりますので、京丹後市観光立市推進条例第28条の第2項によりまして、会議が成立開催できますことを報告させていただきます。それでは開会にあたりまして、坂上会長よりご挨拶を頂きたいと思っております。

<坂上会長>

おはようございます。坂上でございます。これまで、春から部会を3回、それから全体会議としては、前回会議を開きまして、皆様方から熱心なご意見ご議論をいただきました。大変ありがとうございました。

この会としては、今日がこの計画づくりの最後になりますので、忌憚のないご意見をぜひお聞かせいただき、最終のまとめとさせていただきます。よろしく願いいたします。

<高橋部長>

はい、ありがとうございました。続きまして、中山市長より本日の会議の開催趣旨も含めましてご挨拶を申し上げます。

<中山市長>

おはようございます。中山でございます。今日は、観光立市の推進会議ということで、お忙しい中お集まりをいただきました。坂上先生には遠路お越し賜り、それぞれお忙しい中、また画面ズームを含めてですね、ご参加頂いてるところでございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今、会長からお話がありましたように、今日は今後の5年間の展望し計画付ける観光立市推進計画、この間の皆さんの真摯で積極的なご議論を踏まえて、今日は取りまとめたいただき、そういうタイミングとしてこの場をもつていただき、ご審議いただくということで、是非どうぞよろしくお願い申し上げます。

この間の現行計画、現5年間の計画を振り返る中で、特にこの後半の時期というのはちょうどコロナにかぶさり、観光には本当に不都合な疾病です。国のほうも行動制限をかけられるということで、特に我々の地域の実態としては、晩秋早春にかけてのカニをはじめ、食べに来ていただくそんな観光が重点を実体として占めているわけでありまして、ここに定期的にちょうどかぶった2年間であり、大変厳しい状況がこの間ありました。そういう意味で、この現観光計画にとっては、当初想定もしていなかった状況の中で、通常想定していた形での振返りがなかなか難しい状況なわけですが、今後の5年間の展望する上で、この間の状況を踏まえながら、同時に通年観光であったり、食を中心とする観光、これは京丹後として基幹となるような部分だというふうに思っております。それに加えて、この2年半の様々な経験によって、社会的な価値観とか社会的な行動様式というのも変わってきた重点の置き所が、さらに、例えば安全安心だったりとか、SDGs始め環境だったりとかですね、そういうことの大切さというのがより世の中全体で確認をされ、危急をされるような時代にもなっているという風に思います。そういったような価値観や、あるいはDXというのが、社

会実装がより一層革新的、革命的に進んできたこの2年半でもあったかという風に思います。そういったことを、どう我々の観光の中に取り入れていくかということも、大きなこの課題になってくる今後の5年なり何十年なりということだという風に感じているところでございます。その上で、我々の町は観光立市の推進条例を持つ町、これ府の中では唯一だと思えますし、また全国的にも珍しい条例だろうという風に思う中で、まちづくりと重ね合わせながら観光を進める、むしろ様々な分野を人を中心とした観光資源として取り入れて重ね合わせ、そして、まちづくりを進めていく。それが観光に繋がっていく、逆に観光することがまちづくりに繋がっていく、観光を通じてまちづくりの各分野を牽引していただくようなそういうような、まちづくりをしたいという条例でもありますし、実際、これからの時代、我々の観光を通じて様々な分野をぜひ牽引して頂きたいと思えます。まちづくりも込めた観光立市推進条例であり、その趣旨にも叶うような市民総ぐるみの観光が展望できる今後であってほしいなという風にも願っているところでございます。いずれにしても、この間、ご議論いただいたようなことを踏まえて、希望がもてるような時代にしていく、次の代にしっかりと計画とか取り組みとか思いを希望を持って引き継いでいける、そんな中身になって参りますことを期待しています。この間の議論の素案なんかを拝見させていただくと、そういう方向でご議論頂いて本当にありがたいなという風に思っております。そんな中で今日一日実り多いご議論またご成果くださいますようお願い申し上げます。本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

<高橋部長>

はいどうもありがとうございました。市長は他の公務がございまして、大変申し訳ありませんが、ここで退席をさせていただくこととなります。ご了承いただきますようお願いいたします。

次に本日の会議資料の確認をさせていただきたいと思えます。会議資料ですけれども、本日配布させていただきましたものは、まず次第、それから出席者名簿、配席表、事前送付をさせていただきますが、資料1、第4次京丹後市観光振興計画案、資料2 KPI関連資料、そして最後、参考資料集ということでございます。その他の配布漏れございましたらお申し出いただければと思えますが大丈夫でしょうか。

それでは、会議の方に入りたいと思えます。本日の会議ですけれども、今年度予定をしております最後の会議ということになります。前回はご議論いただきました第4次観光振興計画の案を事務局で取りまとめを致しましたので、その内容につきまして、最終的にご確認をいただきたいというふうに思えます

条例第28条の規定に基づきまして、ここからは坂上会長に議長をお世話になりまして議事をお進めいただきます。坂上会長どうぞよろしくお願いいたします。

<坂上会長>

議長を務めさせていただきます。まずは、会議に入ります前に会議録の確認者を指名させていただきます。友田さんと松本さんお願い致します。みなさん、スムーズな進行にご協力お願い致します。

本日の会議テーマは、先ほど高橋部長からございましたように第4次京丹後市観光振興計画案について、最終的にご確認を頂きたいという趣旨でございます。事務局から、本日ある程度固まった計画案を、今後、市議会12月定例会に上程をしまして、パブリックコメントも

行うという風にお聞きをしておりますが、時間的には限られたものでございますので、委員各位の積極的なご意見をお聞かせいただければというふうに思います。まず、関係する資料について、事務局から説明をお願いしたいと思いますが、できるだけ、議論の時間を取りたいと思いますので、要領よく簡潔にお願い致します。

<大江課長>

はい。観光振興課の大江でございます。着座のまま説明させていただきます。資料ナンバーは振っていませんが、こちらの観光振興計画案をご覧ください。

表紙に、このようなコンセプトを書かせて頂いています。前回、いろいろなご意見をいただきました。なかなか皆さんの思いが全て入りきれてないかもしれませんが、一応、ご賛同意見の多かったこちらの案を計画案のコンセプトにしたいということで、表紙に書いております。

表紙を1枚おめくりいただきますと、目次が出てまいりまして、序章で計画概要、1章で現状と課題、2章で将来のビジョン、3章でアクションプロジェクトという構成になっております。構成は、これまでの計画と基本的には変わっておりません。

おめくりいただきまして1ページ、序章の計画策定の概要ということで、ここに図がございますように、1次、2次、3次を経て、国内外の社会情勢の変化ですとか観光市場の動向を踏まえ、あるいは、これまでの経過を踏まえまして、今回第4次という流れだということでございます。

ページを2枚おめくりいただき、3ページでございます。3ページの3番、計画策定の背景が出てまいります。これは京丹後のことではなく、国全体あるいは社会全体のこととして、事務局におきまして整理いたしております。まず一つ目は、観光政策の動向ということで、観光は地方創生に不可欠だということ、③に新しいテーマとしてコロナについて触れてございます。次のページ、4ページでございますが、社会情勢、社会経済環境の変化ということで、一つは世界の価値観の変化、モノからココロの重視、価値観の多様化、安心、安全、平和そういったことが書いてございます。社会経済の変化としては、SDGs、脱酸素、デジタル社会といったことが書いてございます。次の5ページには、観光市場の動向として、①はコロナによる行動変容ということで自然志向、田舎志向、近隣観光、団体観光のさらなる減少などの動きに触れています。6ページの②では、そういった中、ターゲットは地域資源で共感できる方々ということで、地域固有のオンリーワン、市民生活の価値観そのものが観光資源、あるいは、ふるさと納税という新たな切り口での取り組みも必要だということでございます。③はインバウンド回復の期待ということで、円安、あるいは日本を求める外国人旅行者が増えているといったあたりが書いてございます。環境に配慮した観光地づくりということで、環境対策なしではこれからの観光地にはなり得ないということでございますし、7ページでは、宿泊施設も環境配慮型でやらないといけないと、あるいは有機食材ということで地産地消を原則にしていけないといけないということでございます。その下(4)は、観光産業の構造的な課題ということで、これは、ずっと以前からですが人手不足ということ、あるいは建物設備が老朽化してきているということでございます。労働生産性の向上が必要だということや、地域産業、住民が連携によって循環作りをしていけないといけないことが求められております。次のページ、8ページです。観光産業はDXが遅れているという風に言われております。(5)では、京丹後の観光の概況ということで概略が書いてありますが、昭和50年代から伸び始めましたところ、ピークで223万人いきました。その後、諸々ありまし

て、平成28年では210万人ぐらいまできているということですが、この間は、夏と冬の二季型できたわけであり、その中で令和2年初冬から始まったコロナによって、稼ぎどきを直撃されるということが起き、128万人まで落ち込んだということが書いてございます。次の9ページでございまして、上に表がございまして、この間の取り組みということで全て読み上げませんが、下から2番目ですね、令和元年度に京丹後市観光公社が京丹後市で設立をされております。一番下、令和2年度、コロナの安全対策条例というものを制定いたしております。そして4番、計画概要ということで、②で本計画の期間は、令和5年度からの5年間でございまして、続きまして、10ページですが、(2)で明らかにすべき計画の内容として、まず現状課題を明らかにします、将来ビジョンを明らかにします、アクションプランを明らかにします、そして、第3次からの見直し項目としまして、2つ目の○でございまして、通年観光を進めたいということで、KPIに再来訪意向率と、もう一つは宿泊者の平準化率を指標に掲げようではないかということでございまして。

11ページから第1章に入ります。現状と課題ということで、1枚おめくりいただきますと、13ページから具体的に状況を分析しています。(2)入込客数の状況と観光形態ということで、①観光入込はコロナの影響を受けて落ち込んでいるということ、②観光入込の落ち込みに比べ観光消費の落ち込みは抑えられています。上のグラフを見ていただくと、薄いブルーが日帰りの入り込み、濃いブルーが宿泊、赤い折れ線が消費額ということですので、宿泊が頑張っていることで、消費額もそこまで落ち込んでないということがわかります。③ですが、二季型ということで、こちらのグラフではやはり夏と冬に盛り上がっていることがわかります。次のページ、14ページにいきますが、④外国人観光客が、コロナウイルスにより激減したということで、令和2年度にぐんと下がりました、令和3年度もまだそこまでは回復していないという状況でございまして。⑤番、観光地としての認知度は低い満足度は高いということで、グラフがいくつかございまして、右の上のグラフを見て頂きますと、夕日ヶ浦と天橋立と比較しております。認知度としては、まだまだ低いということでございまして、左下のグラフ、満足度でございまして、来られた方は非常に満足をされてるということでございまして。下の真ん中と右に2つありますが、これは観光公社のホームページ等のプレビュー数が載っておりますが、そういった中でもいろいろ工夫をしておりますので見る方は非常に増えてきているということでございまして。15ページに参ります。⑥観光客の交通手段は、自家用車が多い。そして、ほとんどが関西圏からのお客さん、下の円グラフをご覧くださいと夕日ヶ浦と全国を比較しておりますが、車で来られる方の比率が高いことがわかります。その隣、発地場所ですね、これも元年、3年を並べておりますが、9割ぐらいの方が関西圏から来られている。コロナの影響もあって、令和3年度は、より近場にシフトしたということが見受けられます。⑦宿泊客に対し、本市の多様な魅力が伝えきれてないことが伺えるということで、来られる方の京丹後を選んだ目的、あるいは来られた方の満足度、そういった指標ですが、上の図3つは、温泉、食事、宿泊これらは非常に目的地にもなっていますし、実際に満足度も高いということがわかります。下の2つは、アクティビティや自然体験、そういったものについては、目的としても、満足度としても、パーセンテージは低いということでございまして。次に16ページです。⑧番、全国の観光圏と比較してもリピーター率も再来訪意向も高いということで、グラフが2つございまして、ブルーは京丹後、赤が全国ということで、いずれも上回ったラインを描いています。(3)では、施設の老朽化が進んでいるということに加え、3つ目の○にありますように、トイレの洋式化を望んでおられるということです。今年、海水浴アンケートを行いました、8割以上の方が洋式にしてほしい

という声でございました。17ページの(4)観光業を取り巻く雇用の状況ということで、慢性的な人手不足、グラフはずっと右肩上がりで上がっています。その下、観光関連の職種については、特に深刻ということで、グラフの左側2つの全体の有効求人倍率と比べましても非常に高い数値になっていることが分かります。続きまして、18ページには、京丹後の特徴的な資源を整理しております。一つは食であり、ジオパークでございます。豊かな自然として、海、山、だけではなくて、たくさんの薬草薬樹が生えているというのが特徴でございます。宿泊施設が非常に多いということで、京都市に次いで府下では2番目に多い180軒の多種多様なお宿がございます。温泉も非常に多く、40箇所、泉源は、これも京都府内で最多でございます。伝説、伝承も非常に多いということで、とりわけ、その日本の国づくりに関係するような伝承が多いということで、日本のふるさとということが言えるのではないかといたしております。19ページでは、史跡、文化財、建物や場所、古墳、そういったものが非常に多く、丹後王国と言われている由縁でございます。産業では、観光はもちろんですが、丹後ちりめん、ものづくりなど、特徴ある産業が育ち、ブランド食材も豊富だということでございます。そして長寿や人。人も著名人だけではなくて一人一人が資源ということで、人が主役の街全体で観光を盛り上げていく、そういった特徴があるかと思っております。そして安全安心ですね、刑法犯の発生率、交通事故の発生率も非常に低いということ、海外の観光客が日本を求める一つの理由に、この治安の良さですとかそういった部分がございますが、京丹後はそういう観光地であるということです。コロナに関しても安全条例を作りまして取り組んでいるということでございます。続きまして、20ページから、観光の課題と対策の方向性をまとめております。1つ目の課題、二季型観光地で年間通して安定した誘客ができていないこと。対策の方向性としては、経営の安定化や人材確保のためにも通年型にすべきであり、そのためには資源の有効活用が必要だと整理をいたしております。2つ目の課題は、異業種連携が不十分だということで、宿泊客の市内周遊滞在になかなか繋がっていないということです。連携で幅広く観光価値を高めていく必要があるという整理をしております。3つ目ですが、観光地としての認知度が低く、関西圏を含めた広域的な誘客が必要だということです。関西から大勢の方に来ていただいておりますけれども、関西を強化しつつ、合わせて誘客対象エリアも拡大していきたいということでございます。4つ目、コロナを契機とした観光客の行動変容やインバウンド再開に対応が必要だということを挙げております。続きまして、21ページの課題5、環境配慮あるいはSDGs対応した観光地でないと、これからは選んで頂けないということでございますし、課題の6番、観光業を支える人材不足、あるいは財源の確保も課題であろうということです。最後の課題7、老朽化した施設の関係ですね。あるいは、交通基盤の強靱化、利便性向上が必要だということを掲げております。

22ページからが、いよいよ、今後5年間の部分でございます。第二章、将来ビジョンのコンセプトは、先ほど申し上げました通り、「彩り味わい京丹後 海森里山 つながりの郷」ということで、皆さんからたくさんのご意見をいただきましたが、どうしても短いフレーズにとどめたいということで、皆さんから1番、ご賛同意見が多かったこちらを計画案としては採用いたしております。このコンセプトに込められている内容の説明がここに出て参りますが、京丹後には、海森里山と人々があります。そしてこの自然の循環は、海の恵み、里山の実りをもたらして長寿を支え、丹後ちりめんや物作りといった技術を育んでいるということでございます。それらは、長く、歴史・文化となって継承され、日本のふるさとを想起させる場所であるということです。この多様で奥深い物語として観光客を引きつける海、森、里山、つながりの郷を創造していきたいということですし、笑顔と安心安全が産まれる街を

活かして人々との交流を促進し、雇用の増大、作業の活性化、住民が誇りと愛着を持っている、そんな活力に満ちた地域をつくりたいということでございます。この辺りは、先ほども市長が申しましたが、観光立市推進条例の精神が、こちらに入っております。その下、多様な事業者間連携、事業者や市民の皆さんも一緒になってですね、四季折々の無限に存在する観光資源を磨き上げ発信したい。そして、最終的には住んでよし訪れてよしの観光立市を目指したいということがこのコンセントには込められているということでございます。

その下2番。ここでKPIが出てまいります。1番から6番まで6つございまして、1、2、3、4については、これは過去の計画から追っかけている指標でございます。5番、6番は今回新しく設けようとしています。その下に、※書がございますが、1番から3番につきましては、240万人、55万人、1万人ということで大きな数字が並んでおりますが、総合計画とこの観光振興計画と整合性を持たしております。第2次総合計画の令和6年度目標が、この240万、60万、1万という数字であり、コロナで大きく落ち込み3年遅れということにはなりますが、9年度を目標に達成したいということで、そのまま数値をいかしております。ここで、資料2を少しご覧いただきたいのですが、横型のページ、資料2でございます。KPI関連資料ということで、1ページに、今申し上げた黄色の総合計画の数字を、緑の一番右端に、令和9年度目標としてそのまま置いたということでございます。その下に観光消費額105億円というものがあります。2ページ、3ページ、4ページが、今申し上げた総合計画をそのまま数字をスライドさせるという資料でございます。そして5ページをご覧いただきたいのですが、こちらが観光消費額の関係です。点線が、赤い伸びあがった線と、緑色のやや低めに盛り上がった線の真ん中にあります。先ほどの令和9年度に置く観光入込客数に客単価に掛け合わせると、自動的に観光消費額が出てくるのですが、じゃあ、その客単価をいくりに設定するのかということでございまして、赤いほうが令和3年度単価でして、皆さん、ご記憶にあると思いますが、カニの原価も高騰しましたし、あるいは、GoToといったキャンペーンで、普段より少し高額な旅行商品をとというニーズもございましたので、客単価が上がっています。宿泊で19,000円、日帰り1,000円。緑の方をご覧いただきますと、コロナ前でございますが、令和元年、宿泊13,000円、日帰り1200円ということですが、赤の令和3年単価をかけるのは、これはかなり特殊要因がございますので、それはやめておこうと、ただ一方で、令和元年よりも明らかにそういったニーズ変化も起きております。この点々の伸び率の線を、そのまま伸ばすとちょうどこの105億円になりますので、今回KPIの案としてこの数値を用いたということでございます。1ページおめくりいただいて6ページですが、これが5つ目の再来訪意向率に関するもので、夕日ヶ浦の過去4年間の「また来たい」というご意向をグラフにしてありますが、一番下にある全国平均と比べても高い75%です。こちらについては、10%上げましょうということで、今回85%という計画案をいたしております。7ページをご覧いただきますと、宿泊者平準化率の関係が出て参ります。折れ線グラフで、京丹後は赤い線でございます。海の京都エリアでも、ビジネス系の福知山、舞鶴、与謝と観光色の強い宮津市、伊根町では、若干違うラインを示しております。その下表がございますが、京丹後というピーク期は、8月、11月、12月と消えています1月、この4月はお客さんが多いピーク4ヶ月、閑散期は、4.6.9.10の4ヶ月。それぞれを合計し、それぞれで割りますと、ピークに対して閑散期は42%ということになります。その他と比べていただいても、相当偏っているということがわかります。ビジネス系は98%ということですので、だいたい一年中、同じように来られていますし、宮津、伊根辺りは観光の街ではありますが、春、秋もお客さんがそれなりに来られているということでございます。そういった辺りをふまえて、我々も今42%を10%程度

上げて、切りのいいところで50%まで持ってきましょうと。ちょっとざっくりとした目標でございしますが、今回のKPIではこういった数値を掲げております。もう一度、計画案のほうに戻ります。23ページをご覧ください。23ページから、そのKPIを達成していくために何をやって行こうかという、基本方針、基本戦略が出て参ります。基本方針1については、食をもっと活かし「うまいものを食べるなら京丹後」、そう言っていただける街になりたいということです。基本戦略としては、フルーツを前面に押し出そう。あるいは、地産来消と味わう×体験、あるいは市民も含めて街全体で食の町の機運づくりを進めようということと、食事処、お土産処、そういったものを整備していく必要があるということの基本戦略においております。2番目の基本方針では、多彩な人の魅力を観光価値化し、「何度でも訪れたい京丹後」を創出しようというものです。京丹後には、個性的で歴史文化を繋いできた「人」そのものが資源としてありますので、その魅力を活かそうということであります。一つ目は、人が集うビーチを作っていきたい。2番目は、人を介して森、川、海の魅力を掘り起こしていきたい。3番目は、健康長寿、ヘルス、ツーリズム。そして4番目は、スポーツ施設がこの間整備されてきましたので、それらを活かし大会誘致、あるいはビジネス観光で人の交流を増やしたいということであります。基本方針3は、多種多様な文化資源を活かし「なつかしい日本のふるさと・京丹後」を想像しようということで、一つは史跡、文化財、もう一つは伝説伝承を活かしていきたいということであります。基本方針4は、SDGs対応した「持続的で環境にやさしい観光地・京丹後」と言っていただけるように取り組んでいこうということです。一つはビーチを観光客と一緒に保全していこうということです。一つは、ジオパークの精神がSDGsそのものでありますので、それを活用して学びの旅行もやっていこうというもの。一つは、持続的な産業観光を進めたいということ。一つは、世界の人から選ばれる観光地になりたいということで戦略を掲げております。基本方針5でございしますが、「安全安心で快適でユニバーサルな人にやさしい観光地・京丹後」を推進しますということで、まずはコロナからの安心安全の徹底と、インバウンド再開への対応。そして高齢者、障害者を含め全ての人に優しい観光地になること、あるいは使いやすい施設への整備と交通基盤を強化していく。MaaSといった利便性向上につながる取り組みを進めていく。このあたりを掲げております。次の24ページでございしますが、基本方針6は、デジタル技術を活用したマーケティングを展開する「観光DX・京丹後」を目指すということです。デジタル技術を活用した行動分析、実態把握それに基づくターゲティング、プロモーション、デジタル技術を使って事業者連携を深める、関西万博の活用、あるいは広域での情報分析を活かしていこうとです。基本方針7、地域総ぐるみで取り組む「みんながつながる観光地・京丹後」ということで、観光を活用して市民みんなが誇りを持てる地域を作っていこうということでありますし、公社の会員加入拡大。そして観光人材の確保、財源の確保も掲げております。その下に相関図がありますが、非常に線が入組んでおりますが、よくよく考えますとほとんどの方針がほとんどの課題と繋がるんですけども、そうしますと、いよいよわかりにくくなりますので、代表的なラインだけを残していただけたらと思います。

そして25ページから、それに基づくアクションプロジェクトが出て参りますが、これは、令和5年度の予算編成を今からやっていく中で、予算が伴う話ですので、現状の設定ということです。表の見方としましては、基本方針に対して左側の列に基本戦略が並んでおり、それぞれの戦略に基づいて、主なアクションプランを真ん中の列に掲げています。基本方針1では、フルーツの6次化、旬のフルーツ特化、あるいは、旬の魚介類、浜買い体験等、畑体験、農家さんとのコラボ、日本酒の活用、料理人と生産者の異業種交流、旬食材をテーマに

した料理の発信、料理の提供店の拡大、お土産、加工品の開発と販売拡大というものがあります。次の26ページ、基本方針2については、ビーチの活用、イベントの充実、あるいはマリアクティビティの推進、春、秋、冬のビーチの映像を出していきましょう。そして里山里海資源による観光商品づくり、eバイクの活用、それらを伝えるガイドの育成、ジオトレッキングであつたりヘルスツーリズム、スポーツ大会等の誘致、MICE、ゼミ受入れ等そういったBtoBもやっっていこうということでございます。基本方針3は、史跡、神社あるいは経ヶ岬灯台も国の重要文化財に指定されますので、これを活用したい。そして、伝説伝承、地域のお祭り等も活用したい。そして、27ページ、基本方針4、SDGsの関係で観光客と共に海岸清掃を進める、ブルーフラッグについても検討をしていきたい。ジオを活用したトレッキング、教育旅行、織物業、機械金属業等の産業観光、宿泊と第一産業との掛け合わせ、あるいは施設でのアメニティ等々もSDGs対応をしていきたいということでもあります。28ページ基本方針5では、感染防止対策は引き続きということでございますし、今、国府からいろいろな補助金制度が出てまいりますので積極的に活用しようということです。あるいはインバウンドを見据えた多言語の関係、高齢者障害者の優しい施設整備、海浜トイレの修繕と京都縦貫道や特急列車等の交通網の整備、車で来られる方が多いことを前提としたMaaSの展開などです。続きまして29ページ基本方針6では、公社によるデジタルマーケティング、プロモーション。あるいはデジタル技術を活用した誘客も検討してきたいということですし、インバウンドを見据えて航空会社OTAさんと連動して進めたい、あるいは我々の特徴「ロケ地」を発信していきたい。万博との連携、各種広域団体との連携こういったことを書いております。30ページ基本方針7でございますが、みんながつながる観光地ということで、観光分野に市民の皆さんにもどんどん参画していただき、観光客と市民の交流を広げていこうということでもあります。公社の会員増や、異業種連携によってクーポン券等、新たな観光消費もということでもあります。人材交流による繁忙期の人的補完ができないか、あるいは観光業の高付加価値化、生産性向上に向けた人材確保を増やしていこう、あるいは宿泊税そういった新しい財源も検討していきたい、そしてふるさと納税はじめ色々な税制も使って確保していきたい、そんなことを掲げております。

最後になりますが、31ページ、エリア別・地域別でそれを見ていこうということで、海岸エリア、里山エリア大きく二つございます。途中、説明しておりませんでした、地理的な海岸、里山というものではなく、里山と海岸を繋ぐ「グリーンベルト」と言う新たな概念を掲げていきたいと思っております。この地図には載っておりませんが文中には出てまいります。地域別に申し上げますと、網野地域であれば、夕日の丘、夕日の道を中心にしたイベント、あるいは掛津を中心とした教育旅行。海岸保全の取り組み等を掲げております。丹後地域で申し上げますと、ジオのサイトが非常に多ございますので、その活用、そして水産資源の活用、食文化そのものの発信、あるいはセリなんかも活用してきたいということです。グリーンベルトとして、里山里海コンテンツを強化したり、経ヶ岬の活用や施設の整備を進めたいということが出てまいります。最後のページ、久美浜地域については、久美浜一区の歴史的街歩き観光、あるいは久美浜湾一周のくみいちと言われるサイクリングツーリズム。かぶと山展望台の活用など。峰山地域では、猫プロジェクトも含めて街歩き観光、あるいは各種伝説を活用した観光、産業観光、大宮地域では、内山ブナ林等活用したネイチャーツーリズムや農家民泊、人と触れ合うツーリズム。弥栄地域では、食のみやこの企業研修と新たなそういう分野での誘客、あるいは先ほどから申し上げてるグリーンベルト、新しい冬のコンテンツとして、スイス村のゲレンデ広場の活用などです。

以上、駆け足になりましたが説明とさせていただきます。

<坂上会長>

はい、ありがとうございました。

ただいまの説明に対して、ご意見、ご質問等をいただきたいと思います。今ご説明いただいたように観光は非常に幅広い分野で取り組む必要があると言うことが、よくわかってくると思いますし、多くの事業をまとめておられるかと思えます。今回は現状の分析をしっかりと捉えた上で、目標設定や課題の認識、それから全体の計画案へつなげていくということで考え方と具体のアクションが非常によくまとまっているのではないかなという風に思いますが、それぞれの各委員からご意見ご質問等を頂きたいと思えます。

<委員>

見させていただいて本当によくまとまっているし、いい案ができたと思います。質問を3点させていただきます。22ページの2番目標数値の5番、再来訪意向率の令和3年75.3%なのですが、こちらの資料2の6ページの2021年というのは令和3年だと思うんですが、75.2となっているのですが、ここがちょっと合っていないということが一点です。2点目は、25ページが一番下です。④のところ、そしてアクションプロジェクトが9と10と2つ分かれています。取り組み主体は、一つだけになっています。項目ごとに、取り組み主体が丸とか二重丸とかになっているのですが、この9番10番、同じかもしれませんが、同じでも、全部項目ごとに丸がついているのに、ここだけがついていないということが2点目。それから3点目、28ページ、老朽化したトイレのところ、36番、海浜トイレの老朽化を修繕するのは、最優先の黒になっていますが、31ページの12番、丹後地域の所の老朽化した海浜トイレでは優先になっている。ここは丹後地域ではそれよりも最優先のほうがあって、優先になったのか、その辺の関連性というのか、その3点をお聞きしたいです。

<坂上会長>

ありがとうございます。では、事務局の方からご説明をお願いします。まず、再来訪意向率について。

<事務局>

はい。22ページでございますが、端数の処理の関係で数字がこのようになってしまったのですが、75.2とさせていただきます。そして、次の25ページの取り組み主体がひとつしかないという点につきましては、これは誤植でございます。同じ25ページの9番10番が微妙な真ん中のあたりに丸がついていますが、9も10も同じ二重丸、丸ということでそれぞれ記入させていただきます。大変失礼しました。

最後、28ページ、海浜トイレの優先が、最優先なのに31ページの丹後町では優先になっているという点ですが、地域全体のアクションプロジェクトとしては、これは最優先で取り組まないといけないということで、28ページの36番については、最優先にいたしております。31ページ、32ページにつきましては、各地域別ということで、それぞれ事情も異なるということでこの中では優先最優先の順位でいきますと、優先ということで整理をさせていただきますということでご了承ください。

<坂上会長>

ちょっと微妙な感じがありますけども、また整理をいただけたらと思います。31ページと32ページにトイレの記述は他の地域にもあるのでしょうか。

<事務局>

32ページの例えば峰山地域で、金刀比羅神社、羽衣茶屋というような観光スポットのトイレ洋式化というものが出てきてまいりますし、例えば、久美浜のトイレという言葉はございませんが、ここに書いていますようなものにはそういったものも含まれており中身として絡んでくるということでございます。31ページの網野にも、最後7番ですか、静神社等々ございますが、こういったものの観光スポットの整備というところも含まれております。そして、丹後町にも12番ということでそれぞれそういったご要望があるということです。

<坂上会長>

あまりご質問が来ない形で表現を整理していただいた方が良いかなという風に思いますので、ちょっと課題として整理をした方が良いかなと思います。ありがとうございます。その他ご意見いかがでしょうか。

<委員>

9ページのところですけども、ここはまだ令和2年のところで、トピックスが終わっていますが、令和3年度の活動も当然入れられるのでしょうか。

<坂上会長>

事務局、いかがでしょうか。

<事務局>

この表は、トピックスで抜き出したという形ですので、例えば22年の次は25年になっておりますように、毎年のことをこの表では載せてはいないのですが、令和3年はちょっと少し考え方を整理して、トピックスとして載せる事項を検討したいと思います。

<委員>

先ほどトイレの話が出ましたが、スポーツの関係から言いましても、いろんな大会を誘致するにあたって、若年層から高齢の方まで、応援に来られるご家族の方ですね、そういった方の健常者においても、やはりトイレは当たり前を使う施設ですし、洋式というのは避けて通れないのかなと。それから、そこに行くまでの、例えば、車椅子の方が、段差があったり階段を上がって行かないといけないトイレもあります。そういうところも、少しは考えないといけないと思うことを、来られる方々からよく耳にしますので、そういったところも考慮というか配慮いただけたらよろしいという風に思います。以上です。

<委員>

15ページの6のところの観光客の交通手段は、自家用車が多くという部分の発地場所のほとんどが関西圏ですと書いてあるのですが、この中身を分析したようなものはないのでしょうか。

<坂上会長>

関西の府県の割合と言うか。

<委員>

あまり、この数字だとここから読み取れるものがないので。

<事務局>

先ほど、説明申し上げておりませんが、参考資料集が、今日の資料にございます。参考資料集のイメージは、第3次計画では、この分析のところにグラフが貼ってありましたが、非常にグラフが多いということで、今回簡易的なグラフにしたものを一つ、ないしは二つずつぐらいをページにそれぞれ貼ったという趣旨であります。この参考資料集については、その元になっているデータです。本編の最後に資料編として付けたいと考えていますが、参考資料集の7ページをご覧くださいませでしょうか。今のご質問の答えにはなっておりませんが、関西以外がどうなのかというのが、ここに東海であったり、関東であったり、図の14に出てまいります。関西の内訳ですが、この2021年のデータでは、こういうまとめ方しかございませんので、ちょっとデータを探したいと思います。前回、第3次計画で使っている確か平成28年のデータだったと思いますが、関西の内訳が出ておりますので、直近データでちょうど良い資料がない場合は、ちょっと古いデータになりますが、参考情報として載せていくことも考えてみます。

<坂上会長>

だいたいの、例えば兵庫県とか大阪府、京都府が主だと思いますが。

<事務局>

京都府内、大阪、あと兵庫県でも神戸の3つが、ほぼ近い数字で占めております。滋賀県とか奈良県とかは、ほんのわずかでございます

<委員>

多分これから考えていくうえでターゲットっていうのをどう絞っていくのか、後はその商圏ってどう考えていくのかっていうことが重要になってくると思いますので、そのあたりを丁寧に調査する必要があるのではないかと思います。後は自家用車以外でのいわゆるウィラーさんの丹鉄だったり、JRとかそういうものの有効利活用っていうのが重要となってくると思いますので、その辺りどこからどのルートで、どうやってきてるのかというのがデータとしてわからないっていうのは、なんかちょっとすごくこれから考えていく指標として大事になってくると思いますので。

<坂上会長>

マーケティングとして数値から施策を整理していくと。今後の課題になるのかもしれないのですが、公社さんの方が主にはその役割になるのでしょうか。

<事務局 観光公社>

ありがとうございます。公社のマーケティングをずっとやっています、そういった数値は全部取って、いろんなところから当然調査してやっております。ただ、この計画上には今入っていないですけれども、普段のマーケティング上ではそういうことは全部承知しておりますし、先ほどあったように、コロナ前は、どっちかいうと大阪府が一番だったのですが、コロナ後は、京都府の方が多くなっています。以上です。

<委員>

是非、関西圏でしたら、府単位でなく市単位ぐらいの細い、是非そういうのもあったら見せていただければなと思いました。

あともう一つ質問ですが、最後の8番のリピーター率が、令和3年度では、急に下がっている。これに対する分析がございましたら教えていただけたらなと思います。

<事務局>

明確に下がった理由が出せるデータはないのですが、令和2、3年は、コロナで客層が変わったという現象が、あちこちの施設ですとか、海水浴場の開設者からお聞きしております。普段は京丹後に来られていない方もこの2年間は来て頂いていた可能性が感じられます。そういった「コロナだから」、「マイクロツーリズムだから」ということで来られた方もいらっしゃると思いますし、そういった方の意向としては、リピーターになりたいと思わない方も中にはいらっしゃるのではないかなと我々は見えています。

<委員>

この方向がこれから続くのか。コロナが終わったら、前の顧客層に戻って行くのか。そういう読みとかそういうのはあたりするのでしょうか。

<事務局 観光公社>

この満足度調査は、夏と冬に取っているデータとして、特に去年、令和3年は異常にデータ数が少なかったのは確かです。先ほど課長からありましたように、夏、海水浴場を開けていたのが京丹後。海水浴場を開けている可能性もあって、新しいお客さんが来られたのではないかなというふうには分析しているので、これはどっちかいうと特殊要因ではないかなというふうに見ています。

<委員>

たまたま今回はコロナに起因して違うお客様がということですが、そのお客様はどこからの方か。そこのかげ合わせがなかなかうまくできないということが、さっきの話と繋がってくる部分なので、この辺りを丁寧に調べていただくと、何か仮説を立てるのに重要になってくるのではないかと思いました。

<坂上会長>

はい。ありがとうございます。恐らく予算が限られていますので、プロモーションなりいろんなことをやる時に、細かい分析があった上で手法とエリアを絞っていくことなると思いますので、恐らく日頃はそういう視点でやっておられるのではないかなと思いますけど、計

画面上、もう少し内訳を可能な範囲で載せるというのがあると、より分かりやすいのかなと思います。

<委員>

今度は要望です。8ページの図がカラーですが、関連図が白抜きなので、非常に見にくい。老眼で眼鏡をかければもうちょっと見えるのかもしれませんが、この黄土色の住民の方は、ぼやっとしてますし、灰色の上の方の白抜きは、非常に見にくいので見やすいようにならないかなと。同じく14ページの13と14の13ページの②のこの棒グラフ。これも数値が白抜きで、その枠の中にぎゅうぎゅうに入れてあり見えにくい。例えば14ページの一番下のグラフのように、棒グラフの上に黒の数字で書いてあればものすごく見やすいのですが。例えば13ページの(2)の①は、数値が「35」、「34」とか小さいので白抜きにしても見やすいですけども、小数点もあるような数値だったら、すごく見にくいです。14ページの④もそうです。⑤の「58%」は、上の方に書いてあるので、濃いのは見やすい。特に年寄りにも優しいものでお願いしたいです。それから24ページの相関図。線はよく強調されていて見えるのですが、左と右の枠の中の文字が非常に小さくて見えない。線ばかりが強調せずに、もうちょっと見やすくなればなという風に思いました。できれば、ですけども。

<坂上会長>

はい。ありがとうございます。図表について、もう少し数値等、明確に分かるように、また文字の大きさをもう少し全体大きくして、分かりやすいようにということ。全体として少しもう一度チェックしてみたいと思います。それでよろしいでしょうか。

<委員>

改めて、事務局の皆様、各業界の色々な意見を綺麗に取りまとめていただきまして、ありがとうございます。私からは、この計画に載せるのか、それこそ単年のところに載せるのかの検討は一つあるかと思うのですが、今回二期型の観光地から通年型の観光地にといったところが一つ大きなテーマかと思うのですが、それぞれの施策は、おそらく季節ごとにあるものを活用しようとする、行政さんの場合、おそらく春先の事業、例えば4月5月の事業とかは少しやりにくかったり、秋冬のものは実施しやすかったりと、季節によって状況に違いがあるのではないかと思います。単年の事業に落として行く時には、前年から準備が必要になるようなことや、少しずつ準備が発生するようなことも計画に入れ込むのか、年度ごとのアクションのタイミングで入れていただくのかは、検討の余地があるかと思うのですが、実施時期を意識したアクションプランづくりといったところがお願いできたらなという風に思います。

<坂上会長>

ありがとうございます

これから春を少し力入れたいということなのですが、春の予算はなかなかすぐ事業に執行するのは難しい行政の風習というか、体質なので、まあおそらくこの辺のところは改善されているのではないかなと思いますけど。事務局何かご説明ありますか。4月はもうそんなことないちゃんとできる、しっかりできるということでしょうか。

<事務局>

はい、イベントは、確かに今会長からおっしゃっていただいたように、やりにくいという面は現実としてはありますが、準備できるものは前年度中から準備をして、お金の執行だけ、当該年度にするというような工夫はしていきたいと思います。イベントではなく、春の誘客プロモーションとしては、例えば今、力を入れている活イカなどは、これは京丹後市の一つの特徴と言えますが、観光公社を作りましたので、公社なら、春のプロモーションも前年の1月2月ぐらいから仕事がしやすい団体ですので、そういう予算の使い方、組み方をして春からでも、すんなりお客さんを呼べるように取り組んでいきたいと思っています。

<坂上会長>

公社さんなら、スムーズにできるということで。皆さんも是非、公社さんにご相談、ご支援をいただきましたらありがたいかなと思います。

<委員>

先ほどのリピーターさんが減ったということに関連してですが、このカニシーズンに入りまして、コロナの間に、今までのリピーターさんは、ちょっと高齢化と言うか、お年を召されていて、家族の人から「コロナの間は怖いから行くな」と止められていたとおっしゃっていた方がありました。それもあって、なかなか来ることができなかつた。「久しぶりに来たわ」とおっしゃる方が今年は多かつたです。ちょっと落ち着いたからという感じで。今まで車で来られていたけど、家族に「車で行くのは危ないからやめなさい」とか、高齢になって、車はちょっと怖いから電車やバスに変えられているのですが、今度、電車だと、乗り継ぎが不便で。バスも、以前は、冬は観光協会で走らせており、「それなら直通一本で来ることができるのに」と、最近ちょこちょこそういう声を聞くようになりました。その辺の改善ができたらいいなと思います。若い家族の方が、おじいちゃん、おばあちゃんを連れて来られるケースも結構あり、「家族が増えて帰ってきてくださる」ということも多くなっているような気がします。

<坂上会長>

はい、来られるグループの内容に合わせたきめ細やかな対応みたいなことも課題ではないかと言うことだろうと思います。今のことについて事務局、何かございますでしょうか。

<事務局>

16ページの令和3年度でリピーター率が下がっているという点に関しては、確かに、ご指摘いただいたように、よく目立ちますので、今、委員からご意見いただいたような注釈を少し書き添えたいと思います。

<坂上会長>

はい、ありがとうございます。他いかがでございますか。まだご意見頂いてない方の方が多いので、是非お願いしたいと思いますが。

<委員>

KPIの中で、平準化率のところなのですが、過去に議論があったかどうかかわからないんですが、これの考え方っていうのが、二季型の観光を解消しようということだと思っておりますけれども、そのトップシーズンの人数は維持しつつ、なおかつ伸ばしつつ平準化を図る、という考え方もあります。一方で、そのトップシーズンは、高付加価値化の取り組みをされていますけれども、一定、予約を抑えるではないですが、今の人数で維持しつつ、高付加価値化も進めて春と秋を伸ばしていくという考え方もあると思っておりますけれども、こちら辺の考え方がある程度まとまっているのでしょうか。まとまっているとすれば、それに対しての対策というのが、アプローチの仕方としては、たぶん変わってくるのかなと思っておりますが、その辺の考え方がありましたらお聞かせいただきたいと思っております。

<事務局>

指標の取り方は、先ほどのご説明申し上げたように、ハイシーズンを100として、閑散期が何パーセントかという表の示し方をしておりますので、数値で申し上げますと、高いところは高いまま、低い所は上げていくっていう、そういう考え方でいます。当然、冬や夏は、夏なんか特に客単価が低いですし、冬もやりようによって、客数は変わらなくても客単価を上げる方法もあると思っておりますので、これは高付加価値化で消費額増につなげていく。どっちかというと夏・冬は、入り込みを追っかけるというよりは、そちらを狙ってきたいと、そんな思いです。

<委員>

この資料を事前に頂いて読ませてもらって、私の中では宇川加工所ということで、経ヶ岬をイメージすると、本当にいろんな課題を、きちんと取り上げてここに掲載してあるなと思っております。私の中では、やっぱり細かいことよりも、やはりポイント的なことを施策としてどう考えるか。一番この中で、印象的なのは、認知度は低いけれども満足度は高いということ。これ、よく聞く言葉なのです。その認知度を、どう高くしていくか。やっぱり、SNS等も含めて、私は、そういうことはなかなかできませんが、丹後に来たら「とてもいいところだ」と言われる。だから、それが広まらないのはなぜかということ、やっぱり一番に考えていかないと。だから、前回も言いましたけれども、経ヶ岬灯台は、宇川にいても丹後町にいても行ったことがないって言う人が結構いる。やはり、そんなところに、全国からどうやって人を呼ぶんだっていうことですよ。

認知度は、今後、若い力も借りながら、DXと言うのですかね、デジタル的なことを活用しながら、どう認知を広めていくかということを考えていかないといけないと思っております。一番の課題は、やっぱり認知度をどう広げていくか。それは京都府、丹後を含めてですけど、沢山、良いものがあるのに行ったことがない、知らないということが身近な方にもいらっしゃるというのが大きな課題だと思うので、そういうことを広い視点で、この施策の中に入れてもらいたいかなって、率直に思いました。以上です。

<坂上会長>

20ページの課題3の所で認知度が低くと書いてあって、それへの対応のアクションプランが、言葉としては表現されていると思っておりますので、今のニュアンスを十分読み取って、今後、対応できればという感じです。事務局の方、そういうことでよろしいですか。貴重なご意見ありがとうございます。

<委員>

認知を広めるために、観光ですけど、紹介といいますか、京丹後を知ってもらうために発信場所といいますか。ネット使ってお客さんが検索するのは、どういったところが主になっていきますか。現状どうされていますか。

<事務局 公社>

現状ですが、実はたくさんいろんな取り組みをしまして、地元ではあまりわからないかもしれませんが、例えば、秋冬は大阪のメトロだとかJR西なんかで、大阪は21駅の30箇所ぐらいのデジタルサイネージポイントでデジタルサイネージをやったり、250画面ぐらいでやったり、あとJRの電車内の広告ポスターを2,000枚ぐらいやったり、リビング京都という50万部ぐらい市内のほうに発行される媒体に1ページ丸々、秋・冬・春と年3回出したりしています。今みたいな取り組みは、まだ去年ぐらいからやりだしたばかりですが、今年も実際にやっていますので、これからどんな形で認知度が深まるのかなと思うのですが、また、そういうことから、後はテレビ局が、最近来てくれるようになってきまして、去年ビールのコマーシャルに使われてから、テレビがテレビを呼ぶとかマスコミがマスコミを呼ぶというような形で、あとフィルムコミッションもやっております。そういったところから、まだまだ、やっぱり認知度をあげるというのは、京丹後、京丹後って出している、やっぱり本当にいいものを作らないと、いい観光コンテンツがあると自然に回っていくというか、もっともっと大きくなっていくという風に実は思っています。その典型が、竹田城だとか京丹後でいえば、ツリーハウス。コンテンツが当たるといきなり認知度があがっていきますので、そういったところで、確かにPRも必要で一生懸命やるのですが、いかにいいもの作っていくかということが、これからは重要な感じがしています。

<委員>

例えば、もっとより多くの観光客に来てもらおうと思うと、海なら、釣りなどの道具なり、水着だったりボートだったり、売っている店がありますよね、例えば、里山エリアでしたらeバイクもありますけど、そういう特化したとこのお店で、京丹後をeバイクで走ってる動画風景だったり、海で遊んでいる動画を、その店にPRしてもらったり、予算がかかると思うけど、京丹後で遊んでる楽しい風景の動画を、そういうショップなどで動画でアピールすると、よりこの京丹後のイメージが近くなるんじゃないかなと思うのですが。

<事務局 公社>

いろんな制作の方法がありまして、動画でYouTubeで流すとか、最近では人気になっているtiktokで流していくというのがあるのですが、この計画案の中にもありますが、やはり財源の問題。先ほどのデジタルサイネージにしても、いくらでもやったらいいのですが、一回デジタルサイネージを大阪でしたら200万円かかるのです。リビング京都で1ページ使うと300万円ぐらいかかるのです。今は、そういった形で、ふるさと納税を得ながら、いろんなことをやれるんですけど、やっぱり、そこのお金が、かければかけるのが効果ができますので、どうやってその財源を確保するかが問題です。

<坂上会長>

もし何か具体的に、ここでこんなものというのがあるようでしたら、是非、事務局にご相談いただければ、具体的に動く可能性もあるのではないかなと思いますので、よろしくお願ひします。

<委員>

非常にきっちりとおまとめいただきましてありがとうございます。たくさんの方のアクションの課題がありますので、これを一つずつやって行くのは大変なことだと思うのですが、もちろん全部を進めていくわけですが、私の中で特に感じている所は、やっぱり食の魅力を出していくのと、基本方針2にもありますように、スポーツイベントだとか、ビジネスユースだとか、こういったものを打ち出していく。それで平準化を図っていくところを力を入れていきたいなという風に思っています。そういうことを考えた時に、例えばその後、この基本方針2にあるような事柄をどうやってPRしていくかということ考えた時に、そのマスメディアばかりだと難しいのではないかなと思います。どっちなかいうとやっぱり先ほどのおっしゃったように、何か特化したPR活動も併せて考えていかないと、この需要ってというのは取れないのではないかなという風に思いました。後は、食のところですが、「たんちよす」は消えてしまったのでしょうか。

<事務局>

25ページをご覧いただきたいのですが、先ほど少しご説明させていただいた通り、25ページ以降のアクションプロジェクトは個別の事業は載せずに、考え方をここで挙げた上で、観光部門だけでなく市役所全体で他の部署も含めて、「たんちよす」も含め、例えば健康長寿福祉部の長寿食ですとか、各部局でそれぞれこれらに基づいて事業を組んでいきます。よって、この表の中では「たんちよす」という個別の事業は上がってこない形になります。ただし、事業としては継続するという考え方でおります。

<委員>

丹後の食材や食をPRしていく時にポスターとかでデジタルサイネージとかだけではなくて、食そのものを関西圏や首都圏でPRする活動ってというのが必要なのではないかなという風に考えています

<坂上会長>

よろしいでしょうか。表紙に旬の京丹後というマークが入っていますので、このことが、その意気込みを示しているのではないかなと理解をしておりますが。

<事務局>

25ページ以降は、予算編成前ですので、具体的なことはなかなか書けないという側面があります。今いただいたようなご意見は非常に大切な戦術だと思いますので、予算要求だとかそういった段階であげていきたいと思いますが、結果的に予算がどういったものにつくのかは申し上げにくい部分がありますので、しかと受け止めて予算編成に臨みたいと思います。

<事務局 公社>

海の京都DMOさんや京都府さんも含めて、旬の食材店だとかいろんな取り組みをして頂いていますので、当然、京丹後市だけじゃなくて、豊岡DMOさんも含めて、幅広くやっていく予定であります。

<委員>

綺麗にまとめていただいております。色々なアクションプロジェクトがたくさんあって、本当に一つ一つやっていくのは大変だろうと思いますが、今後の課題とアクションがよくまとめられているので、これに向かっていけばすごく素敵なまちになるんだろうと思うのですが、実際このアクションプロジェクトが、こういう風に京丹後市として進んでいるって言う事が、私たち、実際の現場のスタッフが分かっていないなど、すごく感じます。それを伝えていくのが私たちの役割なのかなとは思っているのですが、なかなか現場で日々、蟹の時期にもなり忙しくなってきたり、スタッフは毎日朝から夜まで働いている中で、こういう目標っていうところが見えにくいという現状があります。やっぱりこういう一つ一つ取り組みに向かって頑張っていくんだよというところを、一緒に見せてあげたいなっていう気持ちがある中で、これらのアクションプロジェクトを今後される中で、予算がついた時や、実施にやってみようかなっていう段階の時とかに、是非、観光事業者や色々な事業者のスタッフに、まずは試しじゃないですけど、一緒にできるような機会を最初に作って頂いて、試験的に私たちを巻き込みながらやっていただけたら、メディアとかSNSだけではなくて、実際に働いているスタッフが、発信していくことを感じる事が一番だと思います。そこをぜひ一緒にしていただけたら、私たち働いているスタッフもテンションも上がってくるかなと思いますし、自分達のSNSでも発信していけるのかなと思います。あとは、食というところでも、今後打ち出していきたいという気持ちは私自身すごくありますし大事だと思っておりますが、実際現場としても、その食の担い手がやっぱり少ないっていう現実が本当であって、すごく厳しい状況です。色々なものを開発したり、作っていきたいっていう気持ちはあるのですが、作ってくださる人にどういう風にお願ひしようかなと、日々お願ひすること自体が厳しい現実です。あの「たんちよす」とか、そういったすごく展望を高くいろんなことを考えてらっしゃる人達には、それはそれで引っ張っていただきたいなと思っておりますが、そういった人材が不足していること、特に食に対する人材不足のところも何か工夫をしていかないといけないと思います。是非そこも一緒に考えていただけたらありがたいなと思っております。

<事務局>

おっしゃる通りで、すごくいいご意見頂きました。どうしても我々、予算化した事業を予定に沿って淡々とやるという、ある意味使い方がヘタなところがあります。今おっしゃっていただいたように、同じ事業を進めるにしても、現場で実際にお客様と触れ合っていく方、事前に情報をお伝えし、一緒にやっていただくとかそういう形の方が、同じ予算を使っても効果は大きくなると思います。計画の中には、なかなか書きづらいことですが、取り組み方としては、そのように進めたいと思います。

<坂上会長>

なかなか難しいと思いますが、業界と行政とのDXのような形で、情報がコミュニケーションで、常にコミュニケーションできるような仕組みがあると、いちいち集まって会議しない

と伝わらないということではないのいいのかなという気がしますけども、なんかそのような開かれた情報提供、意見交換できるようなことがあるといいかなという風に思います。今後の課題であろうかなと思います。

オンラインでのご参加の方、ご意見いかがでしょうか。ご意見ありましたら、ぜひお願いしたいと思いますが、オンラインでのご参加の方、挙手いただきますようお願いいたします。大丈夫ですか。よろしいでしょうか。頭を上下に振っておられて、よろしいということと理解します。また気が付きましたらおっしゃってください。

<委員>

私どもの組織と言いますか、機械金属業は、特に観光業界さんとは関係がないと言ったら失礼ですけど、接点がなかなかないので、唯一このプランの中で共通する部分と言いましたら、やはりあのインフラ整備、今回の京都縦貫道の2車線化という部分でチラッと当たっていただいているのですが、先般、今度の4月1日から、NEXCO西日本に移管されて、宮津天橋立までがNEXCO西日本、それ以降が山陰の近畿自動車道ということになるんですけど、あの要望事項でも常に要望してますが、やはりこの2車線化。近年、非常に交通量が多くて事故も多いと。今月の14日の日ですね、料金設定が発表になりまして、それを見ますと、平日は今よりも料金が上がると。早朝と夜間が急激に安くなるということ。休日と早朝、夜間が。そこへ、この交通量が集中してしまうと、さらに常態化すると。こういったやっぱりインフラ整備というのを、第一に自治体でできることではないんですけど、やはり強く要望するべきだと私は思っております。この渋滞に巻き込まれたお客さんが、もう二度と行きたくないわと思ってもらわないように、やはりこのスムーズな交通の移動をしていただくためにも、この2車線化、4車線化の実現に向けて、動きを早急にとって頂きたいなと思っております。以上です。

<委員>

今、色々拝見してまして、うまくまとまっているなというのが率直な感想です。その中で、一つ目標数値のところ、22ページのところですけども、観光入込客数とか宿泊客数とか、なかなか頑張られる数字を大胆に書いていただいていると思ひまして、そこはすごいなというところと、宿泊者数の平準化ということで、二季型から四季型を目指すという思いもよく伝わるかなと思ひます。そのなかで一点気になるというか感想みたいなものなので、二季型から四季型はいいんですけども、先ほども、もともと多い夏と冬はこのぐらいの数字のままという話があったんですけども、これ以上そういったオンシーズンのとき観光入込客数が増えた時に、雇用が足りない、足りないというお話がある中で、雇用改善の対応をしていかないと、なかなか観光客が入ったときに対応ができるのかなと、そこら辺の心配がありますので、ちょっとその辺の対応が必要かということも書いていただいておりますけれども、それと、そうしたところの中で、別にこの目標数値に入れる必要ないかと思うんですけども、一人当たりの宿泊単価ですとか、一人当たりの観光消費額とか、少ない人数で儲けるような仕組みとも重視して考えていった方がいいんじゃないかなというのが、ちょっとこれを見て、私が思った感想みたいなものですが、以上です。

<坂上会長>

今旅館さんはピークの時、でも平日は空いていたりしますよね。そうでもないのですか。

<委員>

今は、12月の20日まで、京都、全国支援割引がありまして、割引が大きいので12月の20日まで、平日もかなり入ってはおります。金土日かえて土曜日はクーポン券が1,000円ということもありまして、ちょっと少なかったりする週もあつたりします。皆さん、よく考えて使っておられるなという感じですね。1月2月がまだ今のところはちょっとすいているかなという感じです。皆さん、コロナが増えてきているのもありまして、感染も考えながら、行動を考えているのかなという感じです。

<坂上会長>

夏はいかがですか。夏の平日は。

<委員>

今年の夏に関しましては、やはりコロナが比較的落ち着いた。行動制限もあまりないということで、平日土曜日限らず、お客さんは多かったです。でもやっぱり受け皿がもういっぱいというところのラインがありますから、お客さんが増えたなと思った場合、やはり日帰りが増えたというのが現状です。ですから、やはり先ほど言われたインフラの整備はもっと改善されて、例えば京都からの行動がもっとより近くなったり大阪からもより近くなったりするともっと増えると思いますし。お客さんの層も若干変わってきたというのはありますね。交通の便が良くなって車を利用する人が多いので、やっぱり比較的若い中年までの方が利用する方が多かったのはあります。

<坂上会長>

ほぼピークはかなりの許容を満たしているということなので、やっぱり春秋が重要なテーマかなということだろうと思います。

<委員>

先ほどから言われていたように、一人単価のこれからの向上とか、こちらの方に来た時のお金の使い方が増えれば、無理に仰山入れなくても消費は上がります。今、現実に商品の高騰とか、原油高、電気代の高騰、いろんなことで観光業としては、もう上げざるを得なくなっているのは現実と思っています。比較的、今年も前々年から比べるとかなり単価的なものは上がってくると思っております。それに対して、単価が上がれば、お客さんからすると、よりサービスの向上を求めてこられたりするとか、建物がもっと綺麗になってほしいとか、いろんな求め方が多くなってくるので、それに伴って、逆に今度は人材不足、サービスを良くしようと思えば、やはり人手も要ります。それを、いかにして、これから向上していくのかというのを考えていかななくてはならないかなと思っておりますし、やはり物価が高騰してくれば、例えば、丹後っていいものがたくさんあるので、いかに地産地消をこれからもっともって進めていくのかも、一つの課題だと思います。

<委員>

今、会社の方で特に力入れているのは、インバウンドです。特に来年以降増えるという中で、以前、台湾に台北ワンワンという超高層ビルの横に施設をもっていて、そこで向こうの台湾の人向けのプレゼンということで、うちのビデオを見せたりだとか、パンフレット置いたりとかして誘客を図りました。最近、この10月にシンガポールのマリーナベイサンズの近くで、どちらかと言うと、台湾の方はコロナ前で6万人ぐらい、インバウンド4%ぐらいなのですが、そんななかで台湾の方が55%、本土と香港を入れると65%ぐらいが中華圏いうところになっています。そういう中で、台湾はうちに合弁会社あるから、それでやっております。さらにシンガポールにも、うちの統括会社を持ってまして、そっちはどちらかと言うと富裕層で、最近なんか観光庁も一週間で100万円以上消費するような、そういう層を取り込むような施策をやっているような話は聞きましたが、別に鉄道の方としては、どちらかというとな数が勝負なんで、ウィラーとしては、いろんな旅行だとかいろんな事をやっつてる中で、今、京丹後市さんとは、ピーチさんとの関係で協調なんかもしていますので、まずはここに来ていただくこと。別に丹鉄があるから電車はもちろん、うちとしてはありがたいのですが、それに限らず、ともかくこっちに人が来ていただくというような施策をやっています。それに合わせて、あの丹鉄の方も、例えば今年入ってからだと、角川の艦隊コレクションと一緒にコラボしたようなものでコアな会員向けの誘客をしたりだとか、それ以外に最近、地元の色んなコラボという意味では、クラフトビール列車というのを丹後広域振興局とやったり、あとサイクルトレインですね。京都府さんの後押しがあり、今まであまりサイクリスト向けの本格的なことはできていなかったのですが。そういうのを9月に運行して、更に今日10時にプレス発表を京都府がしていると思いますけれど、京都府の道路課の方でご支援いただきまして、全体では5カ所ですけど京丹後市内では久美浜とか網野の3つの駅にサイクルステーションということで、ラックだとか、あの輪行袋だとか、eバイクの充電器だとか空気入れとかもそういった環境整備をしてもらっています。一個一個地道ですけど、なるべくこの地域に誘客を図れるならの施策をやっているというところが、近況報告となります。

資料の方は、皆さんコメントされているように、短期間の中で、よくまとめられているという風に読んでいて思いました。ただ一点、交通関係の所って、もしかして本来はあるのに、ちょっと書かれていないのか、一部基本方針だとかマイカーで来ているだとかっていう風にありますけれど、おそらく地域の課題として2次交通の課題であるとか、例えば、特急の乗り継ぎが悪いだとか、我々にとったら都合が悪い部分もありますが、逆の立場で、課題としてはね、特急の本数だとか便数だとか、多分そういったところもおありなのかなと思います。なんか自分で言うのも何ですが、ちょっと交通の課題という点では、どこの地域の計画にも共通するような項目でありますが付加えてもいいのかなと感じた次第でございます。

<坂上会長>

鉄道の利便性、それから2次交通、京都府内ならどこでも書いてあることなのですが、そういうことも記述はちゃんとしておいた方がいいのではないかとご意見であったかと思えます。

<委員>

今言われたように、カニシーズンでお客さんはかなり入っているのですが、国の補助金とかで、コロナの対策で安いコロナ金利を借りて、店を直したりして高付加価値のような改修をされているところは、今度はお金を返さなくてはならないようになってきます。このままコロナの状態が続いたら、とても苦しくなると思うのです。それで、12月20日で旅行支援も打ち切られて、それからの入込は少ないという不安もありますし、そういうことで、京丹後市にたくさん来てもらえるようなプロジェクトを、今皆さんが話し合っているような事で、ちょっとでもシーズンオフでも来てもらえるようにしなくては苦しいようなところも出てくるかもしれません。僕らの旅館業界もサービスを良くし、食を良くし、もう一度来てほしいというような努力は、どこでもしていると思うので、ちょっとでもシーズンオフになってからでも、お客さんが誘致できるように努力していきたいと思います。

<坂上会長>

ありがとうございます。あと10分ほどの予定になりましたが、オンラインでのご参加の委員の方々はいかがでございますか。よろしいでしょうか。

今回、第4次京丹後市観光振興計画ということで、今度、議会上程されるという前提の今の資料でございますけれども確認をさせていただきたいと思います

まず、「コンセプト 彩り・味わい京丹後 海・森・里山 つながりの郷」ということで22ページに書いてあります。皆さんからご意見を頂きましたけども、一応それを組んだ形での事務局のご提案ということでございます。これについてこれでよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

数値目標、かなりの現状の分析、一部マーケティング上の細かい技術が、データの方でもうちよっとあった方がいいのではないかというご意見もありましたが、一応目標としてこのような22ページの目標設定ということで、一部、5番目の再来訪意向率を75.2%に変更して頂いた内容で、これを目標に進めていくということでよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

それから、基本方針が23ページ24ページに出ております。基本方針と基本戦略これについて2ページにまたがっておりますがよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

以上コンセプト、数値目標、基本方針、基本戦略については、皆様からご了承いただいたということで、まとめさせていただければと思います。

第3章のアクションプランは、来年度の予算との絡みがありますので、今は仮設定ということでございますが、ここについても、表現方法含めてご意見を頂きましたので参考にさせて頂いて、最終の予算とのリンクでまとめさせていただくという形にさせていただければというふうに思います。31ページ32ページのエリア別の内容についても載せられておりますので、これも含めて、今のところは予算との絡みがあるということで、ご理解いただければというふうに思います。

全体のまとめのご了承をいただきましたが、ご意見がございましたら。

<委員>

12ページ、京都から1時間半では絶対行けないと思いますが、意気込みということで。

<坂上会長>

今日は、オンラインでのご参加を含め多くの皆様から貴重なご意見をいただきました。たくさんご意見いただきましたが、かなりまとまってきているというのが、皆さんの全体のご意見であったかと思えます。一部にマーケティング的発想でのデータの整理の仕方を、もう少ししておいた方が、今後いいのではないかというご意見をいただきました。これは、データ編の方とかを含めて整理を可能な範囲でしていただければというふうに思います。グラフとか図とか文字、数字については、もう少し読みにくい部分があるので、もう少し分かりやすい表現にさせていただいてはどうかというご意見がございました。最近、文字を全体に大きくして分かりやすくするという計画が主流になりつつありますので、その辺も含めて見やすく整理をいただければというふうに思います。それから今後、この目標数値の話の時に出てまいりましたのが、ピークと換算率との考え方が複数の方から、ご意見いただきました。ピークは相当かなり許容量にやや達しつつあるのではないかということで、これについては、量から質への転換という形になるのではないかと、現場の方からも、ややそれ見合いの高付加価値化、単価の向上を上げていくということを選択し、満足度を確保するということになるのではないかとご意見がございました。それから、オフの春秋につきましては、まだまだ可能性があって、色んな京丹後の魅力を十分に春から秋に認知度を高めることによって、平準化ができるのではないかと、皆さんさんのご意見であったかと思えます。この計画書の課題は一応、しつかり的を得た課題整理をして、対応策を構築されているのではないかとご意見がございましたが、細かい点、現場のニュアンスというようなことが、今後必要になってこようかと思えます。それから最後の方に、観光業に関わるスタッフの方々もこのような京丹後市の考え方と具体の事業をアクションについて、もう少し幅広く情報が伝わり、働く方々のモチベーションに繋がるようなところまで行けば、すごく良い計画になるのではないかとご意見も頂きました。この辺、すごく労力がかかるので、限られたスタッフでどこまでできるかという問題もありますが、DXを含めて実際にいろんな情報の伝達の仕方なり、ご意見の吸収の仕方なりがあろうかと思えます。この辺のところを少しあるといいなというご意見がございました。

一応、皆さんのご意見を含めてこの計画と言うので、第4次京丹後市観光振興計画この検討の会議の場はまとまったということにさせて頂いております。

今日が最後の会議ということで、冒頭ご説明させていただきました。本日いただいたご意見を再度もう一度すり合わせることはできませんけれども、事務局の方で可能な限り、反映調整していただくということで、最終的な計画案として事務局の方でご整理頂きたいと思えます。これで私の議事を終わらせていただきたいと思えますが、抜けている点ありましたらご指摘頂きたいと思えますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。では議事を終わらせていただきたいと思えます。議事進行にご協力いただきまして、大変ありがとうございました。マイクを事務局の方にお返しいたします。

<高橋部長>

坂上会長、ありがとうございました。また委員の皆様には、2回の会議ということでたくさんご意見を頂戴したというふうに思っております。たくさん意見をいただいて、また参考にさせていただいて、この後また事務局の方で、内容については整理をさせていただきたいと思えますし、またこの修正したものについては、今後パブリックコメントで、みなさん市民の皆さんを含めて見ていただいて、様々にまたご意見を頂戴したいというふうに思ってお

ります。併せて市議会の方にも、この計画を提案し、3月までには、議会に承認いただけるような形で進めたいなと思っておりますので、是非どうぞ、引き続きよろしく願いをいたします。また、たくさん意見を頂いたおかげで、観光立市の会議についても非常に盛り上がりのある会議で、非常に大変ありがたいというふうに思っております。今日も意見がありましたけれども、この会議にご参加を頂いた方を始め、また本市内の観光の関連の事業者の皆様、また関わって頂いているスタッフの皆様、こうした計画をしっかりと、我々もそれぞれにお届けできるようにお伝えをしながら、行政だけではなくて皆さんと一緒に取り組んでいけたらというふうに思っておりますので、引き続きご協力をお願いしたいという風に思います。それでは、今日の会議、今日で終了ということですが、ちょうど12時になってしまいましたけれども、その他がありますが、ぜひどうしてもこのことは言っておきたいという方が、もしございましたら。ありますか。

<委員>

今準備をしているのですが、来月12月の13日から23日の間、丹工の中央加工場というところ、精錬をしているところなのですが、そこを観光施設化しようとして今整備をしまして、そのトライアルでのオープンというのを、13日から23日の間やりますので、一応、お一人500円という形でお値段いただいて、それでとりあえず2週間走らせてみるというような試みをやります。そのチラシ等々、また出来ましたら、皆様の事業所さんとかにもお送りして、来年の4月ぐらいから、具体的なグランドオープンにしたいと思っておりますので、ご意見を頂戴したいと思います。勝手な話ですが、ぜひその期間にお越しいただければと、午前1回、午後2回というような形で、今計画をしております。工事自体も今やっておりますので、出来上がるのが来月の7日とか、それで13日からの2週間のというような形でやりますので、ちょっと完全なものでお見せできるかどうかまだ分からないのですが、是非お時間を作ってくださいまして足を運んでいただければなと思っております。以上です。よろしく願います。

<高橋部長>

それには申し込みとかは必要ですか。またお知らせください。

ありがとうございました。その他、何か皆さんご連絡をされたい事はありますか。

それでは、本日は、これで閉会という風にさせていただきますと思います。閉会に当たりまして、齊藤副会長より閉会のご挨拶を頂戴したいと思います。

<齊藤副会長>

それでは、第4次京丹後市振興計画、彩り・味わい京丹後 海・森・里山 つながりの郷各委員の皆さん、大変ご苦勞様でした。また事務局の方でまとめていただいて、非常にありがたいと思います。よろしく願います。ご苦勞様でした。

<高橋部長>

どうもありがとうございました。それでは、これもちまして、令和4年度第2回京丹後市観光立市推進会議を終了させていただきます。ありがとうございました。